


再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市計画課
担当課長名：谷川 健治

事業名	ひがしよしの ちようきたおきの す 都市計画道路 東吉野町北沖洲線		事業区分	街路	事業主体	徳島県
起終点	とくしまけん とくしまし ひがしよしの ちよう 自：徳島県 徳島市 東吉野町 2丁目 とくしまけん とくしまし きたおきのす 至：徳島県 徳島市 北沖洲 4丁目				延長	2.9km
事業概要 本路線は主要幹線である一般国道11号と北沖洲を結ぶ道路であり、一般国道11号の渋滞対策やマリンプピア沖洲へのアクセス道としての機能を有する。さらに、四国横断自動車道・徳島沖洲ICへのアクセス道にもなり、四国的高速道路ネットワークの機能強化に資する4車線道路である。事業区間約2.9kmのうち西側約2.0kmについては平成17年までに完成（4車線）しており、残りの0.9kmについても平成21年に暫定供用（2車線）を行っている。						
昭和56年度事業化 (平成13年度変更)		昭和48年度都市計画決定 (平成8年度変更)		昭和56年度用地着手		昭和56年度工事着手
全体事業費	132 億円	事業進捗率	94 %	供用済延長	2.9 km	
計画交通量	11,400~20,900台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年 令和5年度
	事業全体 (1.6)※1 残事業 (13.8)※1	(残事業) / (事業全体) 事業費: 5.9億円/330.5億円 維持管理費: 0.0億円/ 2.2億円		(残事業) / (事業全体) 81.7億円/520.4億円 走行時間短縮便益: 73.5億円/353.1億円 走行経費減少便益: 1.2億円/ 41.4億円 交通事故減少便益: 1.0億円/ 23.9億円 環境負荷軽減便益: 5.2億円/ 51.2億円 救急救命率向上便益: 0.8億円/ 50.8億円		
感度分析の 結果	【事業全体】 交通量: B/C=1.1~1.4 (交通量±10%) 事業費: B/C=1.2~1.4 (事業費±10%) 事業期間: B/C=1.3~1.3 (事業期間±1年)			【残事業】 交通量: B/C=11.5~14.0 (交通量±10%) 事業費: B/C=12.4~13.1 (事業費±10%) 事業期間: B/C=12.2~13.3 (事業期間±1年)		
事業の効果等 ■ 国土、地域ネットワークの構築 : 一般国道11号からマリンプピア沖洲や徳島沖洲ICへのアクセス性向上。物流効率化による徳島市中心市街地の活力向上。 ■ 災害への備え : 緊急輸送道路の代替路線。さらに、マリンプピア沖洲からの避難ルートの強化も図られる。 ■ 周辺地域の効果 : マリンプピア沖洲や徳島市中央卸売市場への交通を担うことにより、周辺市街地の交通混雑の緩和に寄与。						
関係する地方公共団体等の意見 ■ 都市計画道路として放射道路に位置付けられる本道路は、早期完成が望まれている。						
前回再評価時より今回再評価実施までの周辺環境変化等 ■ 平成31年3月: 「徳島東環状線(末広住吉工区)」の安宅交差点からの上りランプを含む北行き約0.94kmが供用。 ■ 令和3年3月: 「徳島南部自動車道 徳島沖洲IC-徳島津田IC」の約2.4kmが供用。 ■ 令和4年3月: 「徳島南部自動車道 徳島JCT-徳島沖洲IC」の約4.7kmが供用。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 ■ 令和4年度までに、用地進捗率95%、事業進捗率94%となっている。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ■ 21名共有水路の取得について、交渉に日数を要している。神社の移転先が決定し、排水機場の移転は2箇所のうち1箇所を工事中。今後、用地取得や工事促進に取り組み、令和10年度(2028年度)の完成を目指す。						
施工の構造や工法の変更等 ■ 他事業と連携した残土の有効利用により、コスト縮減を図った。						
対応方針	事業継続					
対応方針の決定理由	■ 以上の事業の効果、進捗状況等を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。					
事業概要図 						

・総費用、総便益とその内訳は各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ・総費用及び層便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。
 ※1 環境負荷軽減便益(騒音・CO2・NOXの低減)、救急救命率向上便益を考慮した事業費及びB/C。